7．人が育てる森林

1911 年（明治 44 年）に植林された　堂平の人工林

● 丹沢山地の人工林●

人工林とは、木材を得るために人がスギやヒノキなどを植林して育てた森林のことです。丹沢山地では、主に標高約 800 m以下の場所で見ることができます。

明治時代に植林が始まり、大正時代に入るとパルプ材（紙の原料）や船をつくる材料として多くの木が切り出されました。

第二次世界大戦（1939　～ 1945 年：昭和 14 ～ 20 年）の後、さらに木材が多く使われるようになり、丹沢では林業が盛んになりました。当時、世附（丹沢湖のあたり）や札掛をはじめ丹沢山地には林業を営む人たちが住む集落がありました。

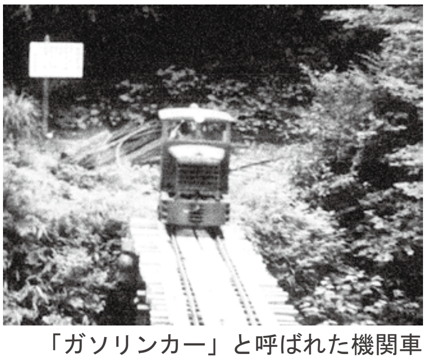
しかし、1970 年代から海外の安い木材が大量に　輸入されるようになり、丹沢山地のスギやヒノキが木材として使われることが少なくなりました。

丹沢に鉄道があった

林業が盛んなころ、丹沢山地には木材を運ぶ森林鉄道がありました。浅瀬集落を始点に２つの路線がありました。

- 大又沢線（大又沢沿いの路線）
- 浅瀬金山線（世附川沿いの路線）

1966 年までにこの鉄道は 廃止され、今は林道になっています。



「ガソリンカー」と呼ばれた機関車